



豪州準備銀行は11月会合で量的緩和策の見直しへ

- 豪州準備銀行(RBA)は、ペースを緩やかに落としながらも国債買い入れ策を少なくとも11月まで継続する方針を示す。
- RBAは11月会合で改めて国債買い入れ策を見直しへ。豪州経済の回復の進展が量的緩和縮小の判断の焦点に。
- RBAは政策金利を0.10%で据え置き。「2024年まで利上げなし」とする今後の政策金利に関するガイダンスも維持。
- 市場の一部では2023年にかけてのRBAの利上げ観測が浮上。先物市場でも2022年後半の利上げを織り込む動き。

RBAは11月会合で改めて量的緩和策を見直しへ

豪州準備銀行(RBA)は7月6日の理事会において、国債買い入れを中心とした現行の量的緩和策に関する見直しを行いました(図1)。

RBAは、現行の国債買い入れ策が2021年9月初旬に完了した後も、買い入れペースを緩やかに落としながらも少なくとも11月までは国債買い入れを継続する方針を示しました。RBAの国債・州政府債保有残高は、2021年5月末時点で2,159億豪ドルへ拡大しています(次頁図3)。

RBAは改めて2021年11月の会合で今後の国債買い入れ策の見直しを行うことを表明しています。RBAは現行の金融緩和策を継続する背景として、景気回復局面から景気拡大局面へ移行する豪州経済を支援する意図があることを示唆しました。今後は、11月会合に向けて豪州経済の回復が進展するかどうかが一段の量的緩和縮小の判断を行うかの焦点となりそうです。

今後はRBAの利上げ見通しも市場の注目点に

一方、金利政策の面では、RBAは政策金利を0.10%で据え置き決定を下しました。RBAは今回の声明文において「2024年までに利上げの条件が満たされるとは予想していない」との従来通りのガイダンスも維持しました。

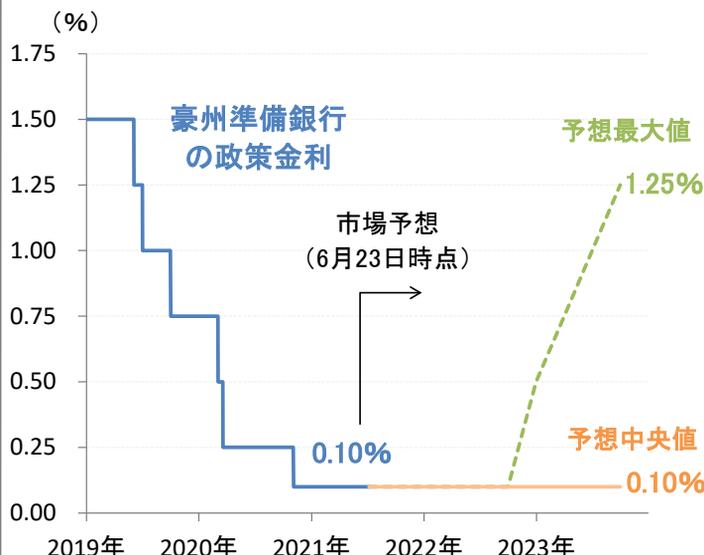
市場ではRBAの政策金利は2023年に向けて据え置きとの見方が大勢なものの、足元では一部の市場参加者の間で早ければ2022年末から2023年にかけてRBAが利上げに転換するとの見方が浮上しつつあります(図2)。また、金利先物市場でも、2022年後半以降のRBAの利上げを織り込む動きがみられます(次頁図4)。今後、11月の会合に向けては、RBAの政策金利見通しの修正議論も市場の大きな注目点となると見込まれます。

図1: 豪州準備銀行(RBA)の政策決定の概要

- イールド・カーブ・コントロール政策の目標を2024年4月満期国債で維持。同国債の利回り誘導目標も現行の0.10%で据え置き。
- 現行の国債買い入れ策が9月初旬に完了した後も、RBAは国債買い入れを継続する。少なくとも11月中旬までは週40億豪ドルのペースで買い入れる(現行の買い入れペースは週50億豪ドル)。
- 11月に国債買い入れ策の見直しを行う。
- 政策金利(キャッシュ・レート)は0.10%で据え置き。
- 今後の政策金利に関するガイダンスは据え置き

(出所)豪州準備銀行 (注)2021年7月6日理事会の声明文。

図2: 豪州準備銀行(RBA)の政策金利の推移



(出所)ブルームバーグ

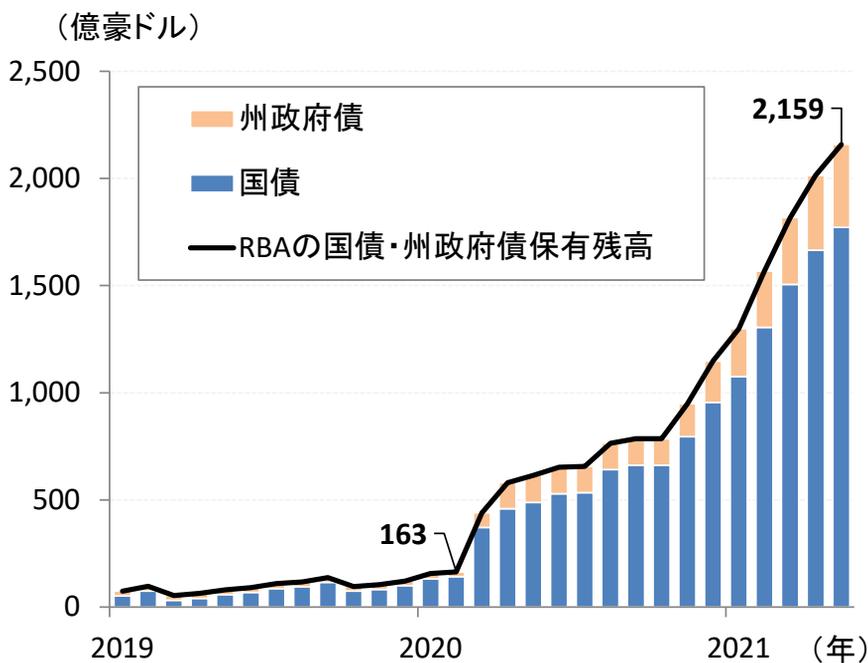
(期間)実績: 2019年1月1日~2021年7月6日

予想: 2021年9月~2023年9月

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

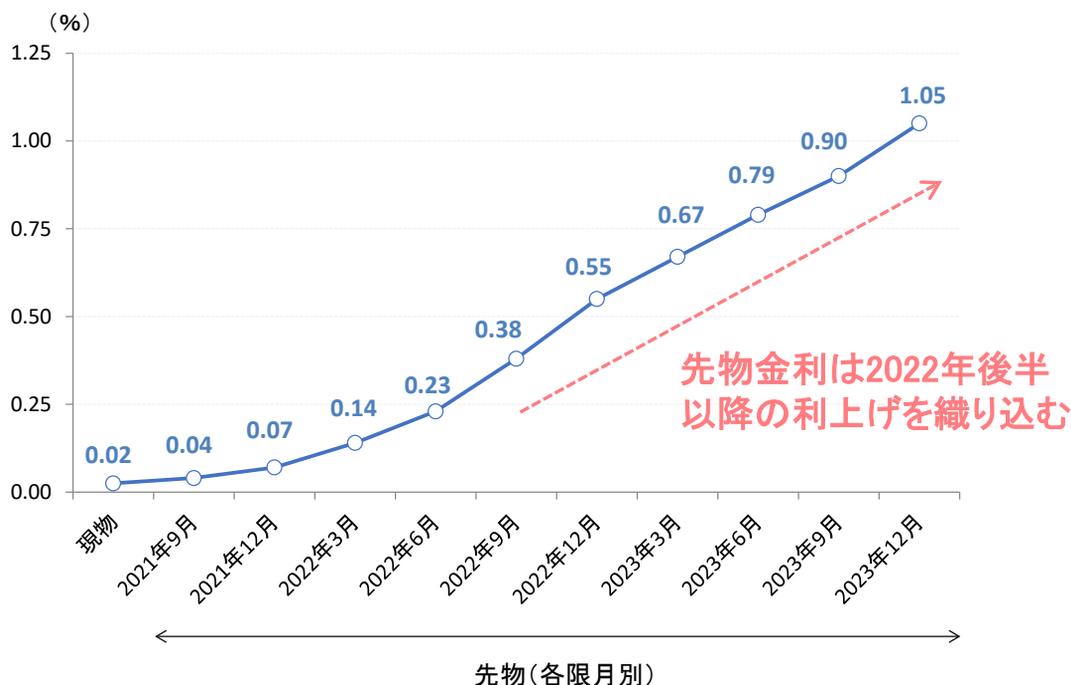


図3: 豪州準備銀行(RBA)の国債・州政府債保有残高の推移



(出所) 豪州準備銀行 (期間) 2019年1月末～2021年5月末

図4: 豪州の銀行間金利(90日物)の先物カーブ



(出所) ブルームバーグ (注) 2021年7月6日時点。